

研 究 報 告 書

学 校 名 南大東村立南大東小中学校

I 研究主題

住みたい、訪れたい島づくり
～島の課題を非認知能力の育成で解決する～

II 主題設定の理由

本研究では、各教科や総合的な学習を軸に学校教育全体を通して「非認知能力」を育むことでSDGsの目標11「住み続けられるまちづくりを」と結びつけた「住み続けたい・訪れたい島づくり」の実現を目指す。

本校の児童生徒の殆どが「島が大好き」であり島(村)の行事や地域との関わりにも積極的であり、自発的な行動ができる。また、本校の研究テーマである「自立した学習者を育む授業の工夫」を行うことで、自己調整力が身に付き、自ら学習を工夫する様子が多くみられた。しかし、アンケートの「最後まであきらめずに学習課題に取り組むことができる。」という質問に対して、約25%の児童生徒が否定的な意見を答えている。これは、次年度への新たな取り組むべき課題とした。

インターネットが普及した現在、無数の情報に翻弄され、ひとつのことに集中しにくい世の中になっている。マイクロソフト・カナダの研究(2015年)によると、人間の集中・持久力はたったの8秒になっており、金魚の9秒よりも短くなっていると言われ、現代人の忍耐力が予想以上になくなってきている。

これらを踏まえて本校では、児童生徒のやり抜く力を育む取り組みを校内研と合わせて一貫性を持たせて取り組みたい。職員全体でやり抜く力の育成の共通認識、児童生徒が島の課題を解決し「住み続けたい・訪れたい島づくり」の取り組みを行い、持続可能な社会の創り手を育んでいきたい。

III 研究実践の主な内容

1. 研究方針

- (1) 小学校、中学校ともに教科横断的にSDGsに取り組むようにしていく。また、学校行事や地域の行事を通して、小中合同でSDGsに取り組む時間を設定していく。
- (2) 児童生徒がSDGsを自分事として捉えられるように、地域人材や地域の自然環境を活用することで、身近なところから問題や課題を見つけ、探究していくサイクルを行っていく。

2. 活動内容

	小学校	中学校
4月	春の遠足（全学年）	3年生学級旗づくり、春の遠足
5月	とうもろこし収穫（1～4年） クラブ活動（うちなーぐちクラブ） 1月まで月に1回実施	生徒総会、とうもろこし収穫、漁業体験
6月	玉置森清掃（小中）	玉置森清掃（小中）
7月	SDGs 講話(D-ark) 4～6年	八丈島交流、SDGs 講話(D-ark)、お弁当作りボランティア
8月		
9月	ふれあい広場清掃(小中)、豊年祭 学級旗づくり	ふれあい広場清掃(小中)、豊年祭
10月	島内宿泊学習（5年）	募金活動(赤い羽根募金・イルミネーション)
11月	修学旅行（6年）、 SDGs 月間計画	防災教室、あいさつ運動、ゴミ箱設置（～12/17）
12月	SDGs 月間、児童生徒の日 お天気教室（3～6年）	あいさつ運動、イルミネーション設置
1月	基幹産業見学（さとうきび）、 SDGs 講話（ネーネズ）	基幹産業見学(沖縄電力、浄水場、製糖工場)、SDGs 講話（ネーネズ）
2月	SDGs 講話（首里城）5～6年 ダイトウ学会にて研究報告	SDGs 講話（首里城） ダイトウ学会にて研究報告
3月		

3. 研究実践例

（1）小学校の取り組み

とうもろこし収穫[ターゲット2&4&11]

地域の農家さんにご協力頂き、食のありがたみと地域の農作物の良さに気づき、地産地消を促す目的として、とうもろこし収穫を体験しました。



SDGs 月間[ターゲット 11 他]

「来なくなる学校作り」を目指し、各委員会がアイデアを出し合い様々なイベントなどを行いました。運営委員会は、いじめがない明るい学校作りを目指し、友達の良いところ探しでクリスマスツリーを作りました。



うちなーぐちクラブ[ターゲット 4&11]

昔から親しまれていた「しまくとうば」を地域の方から学び、地域の方との繋がりを感じるために、うちなーぐちクラブを設置し、継続的に活動しました。



(2) 中学校の取り組み

春の遠足[ターゲット 4&11]

鉄道線路跡のフロンティアロード(製糖工場と港を結んでいた)が活躍していた時代の写真の場所を探しながら港へと歩いていくことで、開拓者や島の発展に寄与した先人の思いを体験する機会とすることができました。



島を支える基幹産業[ターゲット 4&11]

南大東島の人々の生活を支える産業やインフラの仕組みを学ぶとともに、限られた資源を活かしながら持続可能な地域づくりを進めている様子を理解し、島の発展について考えました。



首里城復興おでかけ講座[ターゲット 4&14]

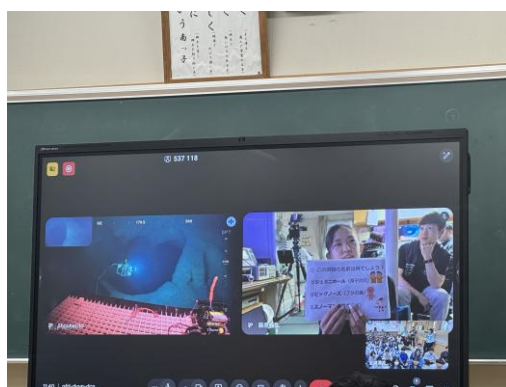
琉球の歴史・文化を学ぶことで、沖縄県への良さを実感するとともに、自分たちの生まれ故郷である南大東島の歴史・文化に誇りをもつ機会とすることができました。



(3) 小中学校での取り組み

D-ARK[ターゲット 4&11&14]

南大東の恵まれた海の豊かさや南大東島特有の生物の多様性を知り、海の豊かさや資源を守っていく心情を育むために、深海調査に取り組む研究プロジェクトD-ARKの皆さんに講話をしていただきました。



SDGs 講話～ネーネーズ 内里美音さん～[ターゲット4&11]

地元の伝統文化や伝統芸能から、自分達の住む南大東の良さに改めて気づき、郷土愛や南大東島のさらなる発展を願うことを目的に、ネーネーズとして活動する本校卒業生の内里美音さんを講師として招き、講話をいただきました。



4 研究実践の成果と課題

1. 成果

- (1) 学校全体で、SDGs について考え取り組むことができた。また、児童・生徒自身が SDGs について興味や関心を持っている様子が見られるようになった。
- (2) 普段の教育活動と SDGs をリンクさせた内容を取り入れることで、教科横断的に SDGs について考える機会を設けることができた。
- (3) SDGs に関する地域の人材や団体の力をお借りすることで、専門性のある学びの機会を設定することができた。
- (4) 児童・生徒が主体的に SDGs について考え、地域や学校を良くしていくためにできることを考えて、行動することができた。
- (5) 児童・生徒自身が改めて南大東島の良さに気づき、自分達のふるさとを守り続けていきたいという意識が芽生えた。

2. 課題

- (1) 島で長年続く伝統芸能（三線・大東太鼓）を継承する児童生徒が減少してきている。このような地域が抱える問題にも SDGs を絡めながら、積極的に取り組みを行っていき、島の伝統芸能を盛り上げていきたい。
- (2) 中学卒業と同時に南大東を離れる子ども達が、南大東島への誇りを持ち、もっと南大東の魅力や良さを主体的に見つけ、伝えていけるような教育活動や SDGs の取り組み方を模索していきたい。
- (3) 離島という環境で、様々な経験や体験に触れる機会の少ない児童・生徒が様々な業種や活動を行っている方の講話などを通して、知見を広げる機会をさらに作っていきたい。
- (4) 課題の設定から探究活動、報告までの学習の流れの定着をさらに図り、多様な場面でのやりぬく力の育成を目指していきたい。